

大鰐町といえば、まず温泉。そしてスキーが思い浮かぶ。少し歴史と地理に詳しい方なら「橋の町」というだろう。町の中心部である温泉街には平川が流れているが、上流から青柳橋、中の橋、月見橋、相生橋、夏沢橋、羽黒橋、虹の大橋と橋が続く。これに奥羽本

線の平川第二鉄橋が連なる。わずか1キロメートルの間に8つも橋があるのだ。しかし、大鰐町の歴史と文化を考える上で記憶してもらいたい存在が相生松である。茶臼山入口の日精寺近くにあり、明治末期に発行された大鰐温泉郷の絵はがきによく登場していた

(写真参照)。

2本に分かれた枝振りの良さから名付けられたの

だろう。

相生松は別名を若松

といった。

このため近くの公衆浴

場は若松湯と呼ばれ、

現在も若松

会館として

健在である。

毎日町民が

通う憩いの

場だが、かつて会館は結婚式や葬式などにも利用され、公民館の役割を果たしていた。

若松会館のすぐそばには平川が流れている。そこに架かる橋が相生橋である。相生橋の端にあるため、若松湯は橋端の湯とも称した。現在の若松会館の隣には、

はしはた食堂がある。橋と浴場と食堂は、いずれも相

堂で信者たちに使用された。しかし痛みが激しくなり、日精寺現住職の佐藤拓温さんが衝立に作り替え、今も寺で大切に保存している。

黒石藩士で大鰐尋常高等小学校長を勤めた箕輪田銀一郎は、大鰐町出身の俳人増田手古奈の恩師だった。箕輪田は数多くの教え子を育て、乃木会、相生会、青年団等の組織を作り、大鰐町の発展のために尽くした。

### 「相生松」が残した

## 大鰐温泉郷の歴史文化

### 中園 裕

(県民生活文化課 県史編さんグループ主幹)

相生松に因んだ名前であることがわかる。

1922(大正11)年、

若松と称された相生松だが、

老木のため倒壊の恐れがあるとして伐採された。これ

を惜しんだ日精寺第23世住

職の日陣は、伐採された松

の素材でテーブルを作ろう

とし、前田善兵衛に制作を

依頼。前田から寄贈を受け

たテーブルは、日精寺の本

見館を茶臼山と命名したの

は箕輪田だという。

1966(昭和41)年、

衰えつつあった桜を惜しんだ大鰐営林署員がツツジを

植樹。3年後に大鰐中学生

たちが引き継いだ。そのツ

ツジが見頃になった197

8(昭和53)年に第1回ツ

ツジ祭が開催された。

ツツジは茶臼山の桜に代

わる存在である。桜は相生

会が植樹したものだ。相生

会は相生松に因んだ名称を

有する。茶臼山の入口にそ

びえていた相生松は、伐採

された後も、松から桜へ、

そしてツツジへと姿を変え

て茶臼山に存在しているよ

うに思える。

相生松が伐採されて10

0年近く経つ。松の存在を

知らない町民も多い。しか

し相生松は大鰐町の橋や公

衆浴場に名を残している。

相生会員たちが公園として

整備した茶臼山は、大鰐町

民の憩いの場であり観光の

拠点である。相生松は伐

採されて姿を消した現在も、

大鰐町の歴史や文化に根付

いており、温泉郷を見守っ

ているのである。

相生松=明治末期・青森県所蔵県史編さん資料



相生松=明治末期・青森県所蔵県史編さん資料